



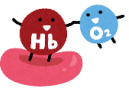
一般的な臨床検査項目一覧

聖マリアンナ医科大学病院の臨床検査センターで行っている、一般的な検査項目の基準値と簡単な説明です。患者様ご自身の検査結果の詳細に関しましては、担当の先生にお尋ねください。



検査項目		参考基準値	単位	説明
肝機能検査 	総蛋白	※ 6.6～8.1	g/dL	蛋白質の摂取不足や腸での吸収障害、尿からの漏出、消耗性疾患などで低くなります。
	アルブミン	※ 4.1～5.1	g/dL	蛋白の一種で肝臓で合成されるため、栄養状態や肝機能の指標になります。
	総ビリルビン	※ 0.4～1.5	mg/dL	古くなった赤血球の代謝産物で、肝臓で代謝され胆汁になります。
	直接ビリルビン	0.0～0.2	mg/dL	溶血(赤血球が壊れること)、肝機能障害、胆汁の排泄障害などで高くなります。
	AST	※ 13～30	U/L	肝臓のほか血液細胞、脳、心臓、筋肉、骨など全身の様々な臓器の細胞内に存在する酵素です。特にALTやγ-GTPは肝臓の細胞に多いため、肝細胞障害や胆道障害の指標になります。また、肝臓以外の様々な臓器での機能障害や疾患においても変動することがあります。
	ALT	※ 男:10～42 女: 7～23	U/L	
	LDH	※ 124～222	U/L	
	ALP	※ 38～113	U/L	
	γ-GTP	※ 男:13～64 女: 9～32	U/L	
腎機能検査	クレアチニン	※ 男:0.65～1.07 女:0.46～0.79	mg/dL	腎臓から排泄される代謝産物で、腎機能の低下で高くなります。
	尿素窒素	※ 8～20	mg/dL	腎臓から排泄される代謝産物で、腎機能の低下や消化管出血、脱水で高くなります。
	尿酸	※ 男:3.7～7.8 女:2.6～5.5	mg/dL	腎臓から排泄される代謝産物で、腎機能の低下やプリン体含有食品の過剰摂取により高くなります。
脂質代謝検査 	中性脂肪	※ 男:40～234 女:30～117	mg/dL	エネルギー源として利用されますが、過剰だと肥満や動脈硬化の原因になります。
	総コレステロール	※ 142～248	mg/dL	善悪含めたコレステロールの総量で、脂質異常症や栄養状態の指標になります。
	HDLコレステロール	※ 男:38～90 女:48～103	mg/dL	余分なコレステロールを肝臓に運び動脈硬化を防ぐ働きがあり、善玉コレステロールと呼ばれています。
	LDLコレステロール	※ 65～163	mg/dL	血管壁に付着して動脈硬化の危険因子となるため、悪玉コレステロールと呼ばれています。

検査項目		参考基準値	単位	説明
筋肉 関連検査	CK	※男:59~248 女:41~153	U/L	脳、骨格筋、心筋に存在する酵素で、心筋梗塞や筋肉の病気、激しい運動後などに高くなります。
膵機能 検査	アミラーゼ	※ 44~132	U/L	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、膵疾患や唾液腺疾患などで高くなります。
炎症反応 検査	CRP	※ 0.00~0.14	mg/dL	炎症や感染症などで高くなります。
糖尿病 関連検査	血糖	※ 73~109	mg/dL	糖尿病、ホルモン異常などで高くなります。食事の影響を受けるので健康な人でも食後に高くなります。
	ヘモグロビンA1c	※ 4.9~6.0	%	過去1~2か月の平均血糖値を反映します。糖尿病で高くなり、血糖コントロールの指標になります。
電解質 無機質 検査 	ナトリウム	※ 138~145	mEq/L	体の水分(体液)の濃さ・薄さの指標で、細胞の水分量に影響します。
	クロール	※ 101~108	mEq/L	体の酸性度が強いと高く、アルカリ度が強いと低くなります。
	カリウム	※ 3.6~4.8	mEq/L	神経や筋肉の働きを調節します。低いと神経がマヒし、高すぎると不整脈が起きることがあります。
	カルシウム	※ 8.8~10.1	mg/dL	内分泌、骨代謝の異常などを知るための検査です。
	無機リン	※ 2.7~4.6	mg/dL	カルシウムと密接な関係にあります。内分泌、骨代謝の異常を知るための検査です。
	血清鉄	※ 40~188	μg/dL	血液中に含まれる鉄分の量です。貧血の原因などを知るための検査です。
甲状腺 検査	甲状腺刺激ホルモン	※ 0.61~4.23	μIU /mL	甲状腺を刺激し、甲状腺ホルモンの合成・分泌を促すホルモンです。
	遊離トリイード サイロニン	2.3~4.0	pg/mL	甲状腺から分泌され、全身の代謝を高めるホルモンです。甲状腺の機能を反映します。
	遊離サイロキシン	0.9~1.7	ng/dL	
感染症 検査 	TP抗体定性	(-)		梅毒の感染状態を見たり、治療の効果判定に用いられます。
	梅毒RPR定性	(-)		梅毒以外の感染症や膠原病でも(+)となる場合があります。
	HBs抗原	(-)	IU/mL	(+)の場合は、B型肝炎ウイルスに現在感染していることを示します。
	HBs抗体	(-)	mIU /mL	B型肝炎ウイルスの過去の感染やワクチン接種で(+)になります。
	HCV抗体	(-)	C.O.I	(+)の場合は、C型肝炎ウイルスに現在感染している、または過去に感染していたことを示します。

検査項目		参考基準値	単位	説明
尿検査 	尿色調	淡黄色 ～黄褐色		食事、運動、薬剤などの影響で変化します。腎臓や肝臓などの病気で変化することもあります。
	尿比重	1.005～1.030		腎臓における尿の薄さ、濃さを反映します。
	尿pH	5.0～8.0		酸性度が高いと尿路結石や腎障害のリスクと関連し、アルカリ度が高いと尿路感染の疑いがあります。
	尿蛋白	(－)～(＋)		(＋)の場合は、腎障害の可能性が考えられます。
	尿ブドウ糖	(－)		(＋)の場合は、糖尿病や腎障害の可能性が考えられます。
	尿潜血	(－)		(＋)の場合は、腎・泌尿器系からの出血が疑われます。
	尿ウロビリノーゲン	(＋)		肝機能の状態を反映します。
	尿ケトン体	(－)		糖代謝異常、飢餓、ストレス、高熱、激しい運動などで(＋)になります。
	尿ビリルビン	(－)		肝機能の状態を反映します。
	尿亜硝酸塩	(－)		一部の尿路感染症で(＋)になります。
	尿沈渣	赤血球:0～4 白血球:0～4	/HPF	尿中の細胞や結晶、細菌などを調べて、腎・泌尿器系に病変があるかを見ます。
便検査	 便潜血	(－) ＜50～110	ng/mL	(＋)の場合、下部消化管からの出血が疑われます。
血液一般検査 	白血球数 (WBC)	※ 3.3～8.6	$\times 10^3$ /μL	細菌などを排除する生体防御に関与します。炎症や血液の病気などで変動します。
	赤血球数 (RBC)	※ 男:4.35～5.55 女:3.86～4.92	$\times 10^6$ /μL	主に全身の細胞に酸素を運ぶ役割を担います。貧血や血液の病気などで低くなります。
	ヘモグロビン量 (Hb)	※ 男:13.7～16.8 女:11.6～14.8	g/dL	赤血球に含まれる色素です。貧血や血液の病気などで低くなります。
	ヘマトクリット値 (Ht)	※ 男:40.7～50.1 女:35.1～44.4	%	血液中の赤血球の割合を表した数値です。貧血などで低くなり、脱水などで高くなります。
	血小板数 (PLT)	※ 158～348	$\times 10^3$ /μL	出血を止める働きがあります。少なくなると出血しやすくなり、血液の病気などで変動します。
凝固検査	プロトロンビン活性 (PT)	75～125	%	出血傾向や肝機能を反映します。抗凝固療法の効果判定としても必要な検査です。
	活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	25～35	秒	血液凝固の異常を調べる検査です。出血傾向や抗凝固療法の効果判定に必要な検査です。

2020年10月1日より、共用基準範囲(※が付いた参考基準値)を採用しました。
共用基準範囲は全国の採用施設で共通して使用できる基準値です。